



令和4年度に頂いた寄附金4,102万8,000円(2,682件)は、次の事業に活用しました。

生き活きとした愛顔あふれる「えひめ」づくり

活用金額 19,554,000円

デジタル起業家の育成

● デジタル技術を活用して愛媛で起業を目指す優秀な人材の育成

県内外から、10代から30代までの14名が参加し、しまなみ海道のほぼ真ん中に位置する大三島のワーケーション施設において、70日間にわたってプログラミング学習と起業に必要な知識を習得する合宿講座を実施するとともに、県内での起業にむけて2か月にわたるアフターフォローを実施しました。



デジタル起業家の育成

愛媛産品のブランド力の向上

● 愛媛あかね和牛の持続的な生産拡大に向けた生産基盤強化

本県が開発した「愛媛あかね和牛」の安定的な生産を図るため、繁殖から肥育・出荷に至る一貫生産体制の整備を支援した結果、持続的な生産拡大に向けた整備が進み、生産頭数が178頭（R4）へと増加しました。



愛媛あかね和牛

営業力の強化と市場拡大

● 「すご味」・「すごモノ」事業者等の販路開拓・販路拡大の支援

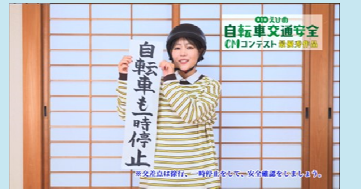
大都市圏での大規模展示会へ出展するとともに当展示会と連動させたオンライン商談会を開催したほか、対面での小規模商談会の開催、大手食品卸主催の展示会への出展、全国各地の百貨店等での愛媛県フェア開催などにより、県内事業者の販路開拓・販路拡大を支援しました。



イオン北関東えひめフェア

自転車交通安全CMコンテストの開催

- 自転車安全利用を呼び掛けるCM企画案を県民から募集し、優秀作品等を映像化・音声化して広く県民に呼び掛ける自転車安全利用やヘルメット着用をテーマに、学生から高齢者までの幅広い年齢層から企画案を募集しました。応募作品145作品の中から選出した優秀作品等をCM化し、テレビ・ラジオで放送したほか、マナーイベントを開催し、県民の自転車安全利用意識の高揚を図りました。



自転車交通安全CMコンテスト

サイクリングしまなみ2022の開催

● サイクリングしまなみ2022の開催

しまなみ海道のPR成果を維持・継続するため、令和4年10月30日（日）、サイクリングしまなみを開催しました。国内は46都道府県、海外は過去最多となる33の国と地域から、総勢6,371名が参加し、しまなみ海道の魅力を広く国内外に発信するとともに地域の活性化を図りました。



サイクリングしまなみ 2022

愛媛南予きずな博の開催

● えひめ南予きずな博の開催

平成30年7月豪雨災害からの南予地域の復興を後押しする「えひめ南予きずな博」を開催し、約54万人の方々に御参加いただきました。

～えひめ南予きずな博について～

テーマ：つながるきずな、ひろがるいやし

コンセプト：南予から発信する「えひめシフト!!」

期間：令和4年4月24日～12月25日



えひめ南予きずな博

輝く愛顔あふれる「えひめ」づくり

活用金額 7,494,000円

安心して生み育てることができる環境づくり

● 地域の強みを活かした官民協働による子育て支援

市町（四国中央市を除く）と、県内に拠点を持つ紙おむつメーカー3社との官民協働により、第2子以降を出生した約4,200世帯に紙おむつ製品の購入に利用できるクーポン券「愛顔っ子応援券」（50,000円分）を交付し、子育て世帯の経済的負担の軽減を図るとともに、県内企業の製品を在住市町の店舗で購入する仕組みとすることで、地域産業の振興、地域経済の活性化につなげました。



紙おむつの購入支援

国際スポーツ交流の推進

● 県内バドミントンジュニア選手のマレーシア派遣

東京オリンピック・パラリンピックのホストタウン交流で関係を構築した国・地域等とのスポーツ交流活動に取り組んでいます。令和5年2月には、県内高校生バドミントン選手をマレーシアへ派遣し、現地での合宿や文化交流を通じて友好関係の維持・強化を図りました。



国際スポーツ交流

やすらぎの愛顔あふれる「えひめ」づくり

活用金額 7,987,000円

移住・交流の促進

● 移住者の受入態勢と情報発信の強化

移住相談にワンストップで対応する「えひめ移住コンシェルジュ」の設置や、各市町・就職支援団体等と連携した東京・大阪・オンラインでの移住フェアの開催等により、移住者受入態勢の強化やえひめ暮らしの魅力の積極的な発信を図るなど、活力ある地域社会を維持するため、更なる移住の促進に取り組んでいます。



えひめ暮らしパンフレット

救急医療体制の充実・強化

● ドクターヘリの安全かつ効果的な運航体制の構築

山間部や島嶼部における救急患者の搬送、災害時における広域救急搬送等において、極めて有用であるドクターヘリについて、県立中央病院及び愛媛大学医学部附属病院の協力等を得ながら運航し、救急医療体制の充実を図っています。なお、令和4年度は、299件の出動があり、運航開始以降、消防機関等との訓練や症例検討会等を重ね、より効果的・効率的な運航に努めています。



ドクターヘリ

災害時の医療救護体制の強化

● 災害派遣医療チーム（DMAT）の活動支援等

県内外において発生する大小の自然災害等への迅速な対応を実現するために、災害派遣医療チーム（DMAT）の活動支援や、災害拠点病院をはじめとした県内の医療機関における災害時の医療救護体制の強化に向けた取り組みを実施しています。



DMATの活動支援

やさしい愛顔あふれる「えひめ」づくり

活用金額 5,993,000円

地球温暖化対策の推進

● 気候変動影響や適応策の調査・研究

県内の柑橘類や自然災害への気候変動影響の調査を踏まえ、柑橘の栽培適地の変化と大雨警報（土砂災害）の発生頻度の将来予測の研究等を行い、長期的な視点で適応策の検討を進めるとともに、「適応」への県民の意識啓発のためワークショップの開催や、リーフレットの作成のほか、動植物に関する気候変動影響調査や、県内の暑さ指数などのデータ収集を行いました。



リーフレット

環境への負荷が少ない循環型社会の構築

● プラスチックごみ削減に向けた調査及び普及啓発

海洋プラスチックごみの効果的な削減に繋げるため、県内4カ所におけるマイクロプラスチックを含む漂流ごみと漂着ごみの調査や、中予地域及び今治市の立入困難海岸における漂着ごみの現状把握調査を実施しました。また、海洋プラスチックごみ対策の中核を担う人材を育成するセミナーを開催したほか、海岸漂着物対策活動推進員・団体に委嘱・指定している個人・団体の活動の様子を新聞やラジオを通じてPRしました。



愛媛県海洋ごみ対策セミナー

防災士の養成による地域防災力の向上

● 地域における防災活動の中心的役割を担う防災士を養成

地域における防災活動の中心的役割を担う「防災士」を養成するため、2日間の愛媛県防災士養成講座を計26回（自主防災組織14回、県職員2回、県立学校教職員1回、企業・団体職員等9回）開催しました。同講座の受講者数は1,915名であり、このうち1,860名が新たに防災士の資格を取得しました。



愛媛県防災士要請講座